

ごみ焼却施設建設がきっかけで農福連携の取組に！ 社会福祉法人 はるにれの里 ふれあいきのこ村(石狩市厚田区)



【ふれあいきのこ村管理棟外観】

【組織等の概要】

- 栽培内容：菌床シイタケ栽培
- 管理者：高島 和臣
- 構成員：(利用者定員)生活介護30名、就労継続支援B型10名、(スタッフ現員)スタッフ23名
- 主な作業内容：菌床シイタケの収穫・計量・パック詰め
- HPリンク：<https://www.harunire.or.jp/kinoko>

※取材：要相談

◇【取組の経緯と概要】

- ◆ 昭和62(1987)年、厚田村(現石狩市厚田区)に当法人が障がい者支援施設を設立したが、入所から地域生活に移行する利用者の働く場所を模索していた。
- ◆ 石狩市が設置していたごみ焼却施設(北石狩衛生センター)の排熱を他事業に利用できないかという話が持ち上がった。
- ◆ そこで排熱が利用でき、地域の元気な高齢者と施設利用者が継続的に支援を受けながら働けるような施設として「ふれあいきのこ村」を開設した。
- ◆ 施設利用者が農福連携を通じ持続的な就労活動やより豊かな社会生活を送り、経済的に自立できるよう手助けしている。

【取組の成果】

- ふれあいきのこ村で農作業を行うことによって、活動場所、働く場所が増え、入所施設からグループホームの地域生活へ移行した利用者のQOL(生活の質)が向上した。
- 利用者の特性や強みにあった菌床シイタケ栽培と福祉制度の活用がいい相互関係を築けており、収益の確保と利用者には北海道平均を上回る工賃の支給を達成できた。

【バイオマスの活用】

ごみ焼却施設(北石狩衛生センター)の排熱利用に加え、廃棄する菌床を乾燥後、木質ペレットに加工し暖房用燃料として利用することで、バイオマスを活用した菌床シイタケ栽培を行っている。

【利用者の状況】

- ・当法人のグループホーム利用者や石狩市内からの通所者が多く、マイクロバスによる送迎を行っている。
- ・個々の障がい特性や体力状況を見極めながら、作業を細分化し施設利用者へ提供している。

【今後の展望】

- 施設利用者の高齢化が進んでおり、体力の低下が顕著となっていることから、作業過程の見直しや作業の細分化により更なる働き方改革を進めたい。
- 菌床シイタケ栽培の品質や収益を向上させるため、有機JAS、ノウフクJAS及びJGAPなどの認証を取得したい。
- 地元地域の人口減少により他の福祉サービスや公的サービスが低下していく中で、持続的な障がい者支援を行いながら、地域の活性化に貢献したい。

菌床に生えているシイタケ



シイタケの選別作業